

2023 年度(令和 5 年度)  
事業・決算報告書

(第 13 事業年度)

自 2023 年 1 月 1 日  
至 2023 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会  
Association for Corporate Support of the Arts

# 目 次

I. 法人の概況 .....	1
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定等に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況 .....	3
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要 .....	5
公 1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動 .....	8
1-2. 調査研究事業 .....	8
1-3. 認定・顕彰事業 .....	10
1-4. 情報発信・提供 .....	13
1) 広報活動	
2) 出版、ライブラリー	
1-5. 普及促進 .....	17
1) セミナー・フィールド視察等	
2) 国際交流	
3) 地域メセナ交流・推進	
1-6. コーディネート、協力 .....	21
公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 活動状況 .....	24
2-2. 助成事業の利用状況 .....	24

# I. 法人の概況

## 1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

## 2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

## 3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

## 4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度 内閣府からは特段の指摘事項、勧告、または命令はなかった。

## 5. 会員の状況

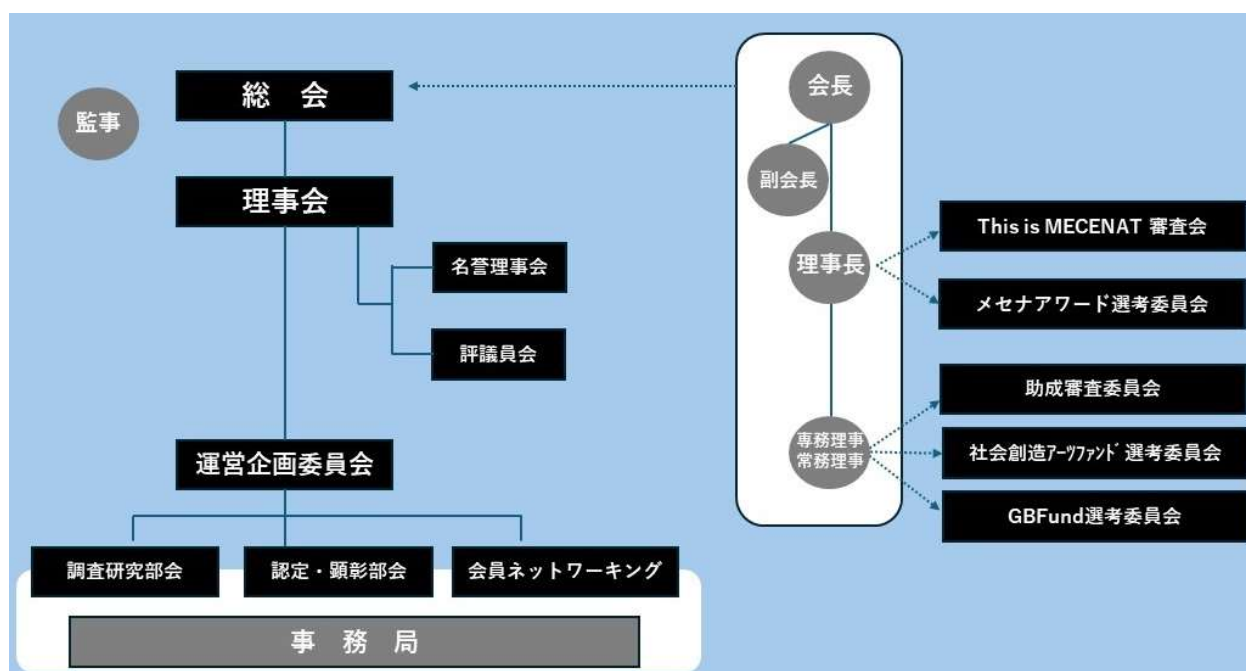
正会員:109 社・団体 準会員:28 社・団体／個人会員 26 名 (2023年12月31日現在)

## 6. 役員等

2023年12月31日現在

会 長	二宮雅也	SOMPO ホールディングス株式会社 特別顧問
副会長	中村史郎	株式会社朝日新聞社 代表取締役社長
理事長	夏坂真澄	花王株式会社 顧問
常務理事	澤田澄子	公益社団法人企業メセナ協議会
理 事	新井一輝	大日本印刷株式会社 ICC 本部 本部長
	小路明善	アサヒグループホールディングス株式会社 取締役会長
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 名誉顧問
	杉村玄一郎	TOPPAN 株式会社 TOPPAN グループ福祉会 常務理事
	住 薫子	株式会社資生堂 アート&ヘリテージマネジメント部 部長
	布垣直昭	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部長 兼 企業・車文化室長 兼 トヨタ博物館館長
	萩原なつ子	独立行政法人国立女性教育会館 理事長
	原島 博	東京大学 名誉教授
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	吉本光宏	合同会社 文化コモンズ研究所 代表
監 事	岩田武司	よこはま第一法律事務所 弁護士
	出塚清治	税理士法人出塚会計事務所 代表社員 公認会計士
顧 問	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 社友
	高嶋達佳	株式会社電通 相談役
	尾崎元規	花王株式会社 前取締役会会長
名誉理事	稲垣精二	第一生命保険株式会社 取締役会長
	遠藤信博	日本電気株式会社 特別顧問
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役会長
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役会長
	早川 茂	トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長
	平田保雄	株式会社日本経済新聞社 参与
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 名誉顧問
	高田保豊	日本生命保険相互会社 常務執行役員
評議員	奥村洋治	株式会社フジタ 代表取締役社長
	坂井辰史	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
	田中稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂DYホールディングス 代表取締役会長
	麿 秀晴	TOPPAN ホールディングス株式会社 代表取締役社長 CEO

## II. 組織運営の概況



### 1. 会議等の開催状況

#### 【定時社員総会】

- ・ 3月3日：2022年度(令和4年度)事業報告及び収支決算承認の件/新理事選任の件

#### 【通常理事会】

- ・ 2月16日：2022年度(令和4年度)事業報告及び収支決算(案)の件/新理事の選任案を総会に上程する件/新会員承認の件/代表理事・執行理事の職務の執行状況について/理事の辞任について/会員動向/今後の予定
- ・ 12月6日：2024年度事業計画及び収支予算(案)の件/資産取得資金積立の件/新会員承認の件/事務局長交代の件/役員報酬の件/「役員賠償責任保険」更新の件/代表理事・業務執行理事の職務の執行状況について/会員動向について/事業報告について/今後の予定

#### 【臨時理事会】

- ・ 3月3日：代表理事・執行理事の選定の件/会長、副会長、理事長等の選定の件/顧問等就任の件
- ・ 5月15日：新会員承認の件
- ・ 6月29日：名誉理事選任の承認の件/新会員承認の件/「芸術・文化による災害復興支援ファンド」実施規程改定の件

#### 【運営企画委員会】

- ・ 2月08日：2022年度事業報告(案)／大日本印刷様の取組
- ・ 7月26日：新任委員の紹介・挨拶／2023年1月～7月活動報告／日本生命保険相互会社様の取組

・11月30日:2024年度事業計画(案)の件/2023年度活動報告(11月まで)/国際セミナー・フィールド  
視察のご案内

## 2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

(◎:部会長/グループリーダー、○:サブリーダー 敬称略 \*部会開催時)

### 【調査研究部会】(1回:2/1)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎清水慶之(朝日新聞社)、天野真一(キヤノン)、金井圭(SOMPOホールディングス)

### 【認定・顕彰部会】(3回:5/12、7/7、7/25)

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎吉田祐子(電通)、大西隆宏(アサヒグループジャパン)、黒主慎享(第一生命)、  
大森真美子(JTB)、砂屋敷真衣(富士フィルム)、日向ひとみ(大日本印刷)

### 【会員ネットワーキンググループ】(1回:6/6)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎宗村 泉(凸版印刷)、安井克行(朝日新聞社)、伊藤由貴子(神奈川芸術文化財団)、岡部三知代(竹中工務店)、薩川浩章(ベネッセホールディングス)、花形照美(リクルートホールディングス)、鈴木久美子(リソー教育)

### Ⅲ. 事業概要

～創造的で心豊かな社会の実現に向けて～  
コロナ禍を抜け、社会の変化とともに進化し、多様化する企業のメセナ活動の発信

2023 年は、5 月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、3 年以上続いたコロナ禍から日常の生活が戻ってきた年となった。海外からの旅行者も増え、スポーツ観戦の声出し応援、花火大会、祭など大勢の人が集まるイベントが復活した。一方、世界情勢は、長期化するウクライナ侵攻、パレスチナ、イスラエルでの紛争の激化など不安定な状況が続き、日本国内では、輸入品価格の上昇、物価の高騰などが生活に大きく影響を与えている。また、2023 年は、生成 AI の利用が急速に広がり、芸術文化分野においても、画像生成、音楽生成などさまざまな生成AIが影響を与える年となった。

コロナ禍を抜け、さまざまな社会の変化とともに、企業のメセナ活動も進化しており、より多くのメセナ活動に光をあて、さらに多くの企業が取り組む流れをつくるべく、それらの情報を発信していくことに注力した。

#### 社会課題に取り組む企業メセナの意義の発信を強化

コロナ禍を抜け、日常生活が戻り、さまざまな団体とのコミュニケーションを深めることが可能となり、連携を図りながら、社会課題に取り組む企業メセナの意義の発信を強化することに注力した。

本年度も、①調査研究、②認定・顕彰、③助成、の 3 事業を柱とし、会員ネットワーキング、セミナー、広報などの活動も合わせ、協議会全体として有機的に連携して行った。

3 月には、SDGs とともに注目を集める「ウェルビーイング」をテーマとした国際セミナー「北欧に学ぶウェルビーイングとアート」を大日本印刷㈱との共催で開催した。フィンランドセンター所長のアンナ=マリヤ・ウィルヤネン氏と国立西洋美術館長の田中正之氏、大日本印刷㈱の石橋響子氏によるレクチャー、また、その後のトークセッションではレクチャーに登壇したゲスト 3 名に加えて、ファシリテーターとしてS2株式会社代表の迫村裕子氏が登壇し、ウェルビーイングとアートの関係についての意見交換を実施した。

調査研究事業では、1991 年から毎年行っている企業のメセナ活動実態調査を実施。2020 年より回答をオンライン化し、回答しやすい工夫を行っている。回答数は企業 518 社、財団 192 団体(対前年比:企業 1 社増、財団 5 団体増)となり、引き続きオンライン化の効果がでている。

認定・顕彰事業では、本年で 10 年目を迎えた認定制度(This is MECENAT)において、認定活動件数 175 件(昨年 163 件)、うち新規 49 件となった。認定企業数については 116 社(昨年 111 社)で、少しずつではあるがこの制度が浸透してきている。引き続き会員企業を含め積極的に認定の意義を伝え、全国で行われている活動の更なる掘り起しに努めていく。

メセナアワードでは、芸術的な観点や企業リソースの活用、社会・地域への貢献や活動の継続性・発展性・独創性など幅広い視点で選考を実施した。多様な人々の交流を通してダンス文化の発展と改革

に挑戦する取り組みが大賞を受賞し、2023年は全ての企業・団体が初めての受賞となった。

広報では、本年も年間計画に基づき各事業と連携し協議会全体としての最適な発信を心掛けた。プレスリリースでは地方紙向けに活動地域に合わせた内容のものを作成するほか、業界紙ごとにPRするなどの対応により、TIM、メセナアワード関連で特に掲載数の増加につながった。ウェブサイトについては、会員のメセナ活動と非会員企業のTIM認定活動を紹介しているアート&カルチャー(企業メセナのイベントカレンダー)において、TIMとの連携強化を図り積極的に呼びかけを行ったことにより掲載数が前年比約4割増加、閲覧数が前年比で約2倍となった。また、企業メセナ訪問記は4活動を紹介することができた。

助成事業では、より多くの多様な支援が行えるよう、活動者にわかりやすく利用しやすい制度とするため、制度運用について再検討を行い、体系の整理を実施した。助成認定制度は、その意義をより明確にするため、対象とする活動の規模を改定することとし、関係団体に説明を実施した。また、昨今の様々なコスト高に対応し、助成事業の継続を図るため、社会創造アーツファンドの手数料の一部改定をすることとし、2024年第一回活動募集から施行するため、関係団体へ説明を実施した。

会員ネットワーキングでは、8月に新入会員ファーストミーティングと、会員ネットワーク勉強会を実施した。勉強会では、ブリティッシュ・カウンシルにて、「芸術支援にいま、必要なこと」をテーマとし、ブリティッシュ・カウンシルと企業の連携などの最新事例と英国の文化政策についてのレクチャーを受けた後、意見交換を行うなど、対面での交流の機会を提供することができた。

## 全国メセナネットワーク

本年も「全国メセナネットワーク」(現在の会員:13団体)の幹事として、7月5日にオンラインも併用して総会を開催した。1996年に各地域のメセナ活動の情報交換と相互協力を目的に「全国メセナ組織連絡会」が発足し、より緩やかなつながりとして、1998年に「全国メセナネットワーク」と改称。当初は協議会が事務局を務め、その後幹事を持ち回り制としたが、停滞していたため2021年より協議会が幹事を引き受けた。総会では8団体が参加し、厳しい社会環境の中で各団体の芸術文化振興に取り組む現状を共有し、活性化に向けた意見交換を行った。会員各団体から、このような他団体と情報交換をする機会がないため継続の要望が寄せられ、次年度も協議会が幹事を継続することとなった。

2023年は、コロナ禍を抜け、日常が戻ってきた年となった。企業やアート団体、アーティストなど芸術文化にかかわる多くの方とコミュニケーションを取りながら、協議会は中間支援組織としての活動を展開した。



【2023 年度事業等実施状況】

月	主な事業・活動	理事会・部会等
1 月	助成相談日(1/30)	
2 月	助成相談日(2/24)	調査研究①(2/1) 第 1 回運営企画委員会(2/8) @駐健保会館 第 25 回通常理事会(2/16)@大手町フィナンシャルシティカンファレンスセンター
3 月	★国際セミナー(3/10)@大手町フィナンシャルシティカンファレンスセンター ★This is MECENAT2023 募集(3/13-5/15) 助成認定制度&ArtsFund選考・審査委員会(3/15) 助成相談日(3/22) ★Mecenat Report 2022 発行(3/27)	第 12 回定時社員総会&第 44 回臨時理事会(3/3)@駐健保会館
4 月	メセナアソシエイト第 10 期公募(4/10-5/15) メセナライター第 9 期公募(4/10-5/15) 助成相談日(4/18)	
5 月	助成相談日(5/19) メセナアワード募集(-5/31)	認定・顕彰①(5/12) 第 45 回臨時理事会(5/15)
6 月	助成認定制度&ArtsFund選考・審査委員会(6/7) This is MECENAT 審査会(6/14) 助成相談日(6/23)	会員 NW①(6/6) 第 45 回臨時理事会(6/29)
7 月	メセナ活動実態調査アンケート開始(7/3) 全国メセナネットワーク 2022 年度総会(7/5) ★調査報告会(7/12) 助成相談日(7/27)	認定・顕彰②(7/7) 認定・顕彰③(7/25) 第 2 回運営企画委員会(7/26)@駐健保会館
8 月	新入会員 1st ミーティング(8/3) 会員ネットワーク勉強会 @ブリティッシュ・カウンシル(8/29) 助成相談日 開催(8/30)	
9 月	★メセナアワード選考会(9/6)受賞活動決定 助成認定制度&ArtsFund選考・審査委員会(9/22) 助成相談日(9/27) 調査アンケート〆切(9/22)	
10 月	助成相談日(10/27)	
11 月	★メセナアワード 2023 贈呈式(11/28) 助成相談日(11/29)	第 3 回運営企画委員会(11/30)@駐健保会館
12 月	助成認定制度&ArtsFund選考・審査委員会(12/13) ★国際セミナー(12/21)@御茶ノ水ソラシティ 助成相談日(12/26)	第 26 回通常理事会(12/6)@駐健保会館

★はプレスリリースを配信

## 公 1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

### 1-1. 提言・提案活動

#### ■行政、自治体など公的機関の文化政策活動への参画

- 静岡県文化審議委員会の委員として文化振興基本計画に参画
- 船橋市文化振興推進協議会の委員として、文化振興施策の評価、提言などを行い総合的な推進に参画
- 横浜市広報企画審議会に委員として任命され受嘱
- 国民文化祭実行委員会に委員として任命され受嘱
- 東京芸術祭実行委員会に委員として任命され受嘱
- 独立行政法人日本芸術文化振興会に団体専門委員会の専門委員として任命され受嘱

### 1-2. 調査研究事業

2023 年度の調査研究事業では、国内のメセナに関する調査、メセナ事例の研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)、外部機関からの調査受託・相談対応の 3 点に重点を置いて業務を推進した。

#### ■国内のメセナに関する調査を実施

- 日本の企業・企業財団を対象としている「メセナ活動実態調査」ではアンケートを中心にデータを収集し、時事設問として、「障がい者による文化芸術活動の推進に関する法律」の平成 30 年の施行を受けて、障がい者の方が芸術文化について鑑賞・参加・創造などするための企業メセナ活動の現状に対する設問とともに、コロナウイルス感染拡大後の活動の変化についての設問を設けるなど幅広い観点からメセナ活動の実態を把握することに努めた。調査終盤にはメールや電話などでの回答の呼びかけを行うなどさらなる回答率の向上をはかった結果、2023 年度調査では、企業 518 社、企業財団 192 団体から回答を得ることができた(対前年度比:企業 1 社増、財団 5 団体増)。
- 『2022 年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenat Report 2022』を 3 月 27 日に発行し、事例紹介を増やして報告書の充実をはかった。さらに、プレスリリースを配信し、おもに企業や官公庁より問い合わせをいただいた。また、調査結果を様々な分野で活用してもらえよう企業や官公庁だけでなく、国内のアート関係者の方々へも送付し、弊会から講師を派遣して実施した大学講義にて教材としても活用された。
- 2022 年度のメセナ活動実態調査の結果報告と内容の理解促進を目的に 7 月 12 日に報告会を開催した。前半は、2022 年度のメセナ活動実態調査の結果報告を行い、「多様化するメセナ活動の“今”と“これから”」をテーマに、朝日放送グループ 岡元氏、セガサミー文化芸術財団 宮田氏、チャーム・ケア・コーポレーション 菊水氏より各社・団体の取り組みをご紹介いただいた。最後はクリエイティブディレクターの中島信也氏をモデレーターにむかえ、事例紹介ご登壇者様によるディスカッションを行い、メセナ活動に関する課題と今後の展望について議論を行った。合わせて、オンライン配信を実施した。
- 2023 年度の調査研究部会は 2 月 1 日実施し、昨年度実態調査の実態調査の集計結果を分析し、各企業のメセナ活動の現状をより実態に則して把握できるよう検討を行った。

## 「SDGsとメセナ」vol.9 「2022年度メセナ活動実態調査」報告会

### ～多様化するメセナ活動の“今”と“これから”～

- 実施日 2023年7月12日(水) 14:00～16:00
- 会場 大手町フィナンシャルシティ カンファレンスセンター ホール・オンライン配信  
(〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-7 サウスタワー3F)
- 登壇者 ※敬称略  
 清水慶之 [企業メセナ協議会 調査研究部会長/株式会社朝日新聞社 CSR 推進部 業務推進担当部長]  
 岡元 昇 [朝日放送グループホールディングス株式会社 コミュニケーション戦略局 サステナビリティ推進部]  
 宮田美也子 [一般財団法人セガサミー文化芸術財団 ディレクター 兼 セガサミーホールディングス株式会社 広報室  
 ブランドコミュニケーション部]  
 菊水 尚 [株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 首都圏介護事業部 広報・ブランド推進課 アートギャラリーホーム 主任]  
 中島信也 [株式会社東北新社 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/CM演出家]
- 参加申込 会場:25名  
 オンライン:88名

※助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(次代の文化を創造する新進芸術家育成事業))、独立行政法人日本芸術文化振興会



### ■メセナ事例の研究(メセナアソシエイト)

- 2014年度より導入した「メセナアソシエイト」は、外部の若手研究者が各自の専門性を活かしながら関心あるテーマを設け、企業メセナについて研究を行うものである。オンラインも活用しながら事務局とミーティングで議論を深め、自らのテーマを探り、企業や企業財団への取材を行い、メセナの事例研究を行っている。
- 第9期(委嘱期間:2022年4月～2023年3月)メセナアソシエイト(3名)は、企業・財団・有識者へ取材を行い、完成したレポートを5月に協議会ウェブサイトに掲載した。

#### 第9期メセナアソシエイト

氏名	タイトル	取材企業・施設
小島ひろみ	フランスにおける戦後日本写真の振興に企業メセナの果たした役割ー「大日本印刷寄贈コレクション」の事例から	大日本印刷(株)
近藤つぐみ	工芸を中心とする日本美術への企業メセナ活動ー伝統と現代の架け橋としてー	(株)資生堂、(株)平成建設
立花由美子	クリエイティブなオープンイノベーション拠点の可能性:STEAM教育と企業メセナの視点から	(株)資生堂、 パナソニック オペレーショナルエクセレンス(株)

- 第10期(委嘱期間:2023年6月～2024年3月)は、選考を経て2名を採用した。
- 2名のテーマは、「音楽祭が地域にもたらした文化的意義(仮)」、「ウィーンにおける音楽文化支援の状況(仮)」である。定期的に事務局とミーティングを行い、事例研究および分析を深める。

#### ■メセナ事例の研究(協議会アソシエイト)

- メセナアソシエイトに加え、2020年度から若手研究者の育成とともに最新のメセナの動向を多角的に捉えた情報を提供することを目的とした協議会アソシエイトをスタートさせた。協議会が設定したテーマに基づき、調査・研究を行ってもらいホームページなどで公開することにより、日本および世界におけるメセナの潮流を理解し、日本におけるメセナ活動活性化の一助とする。2023年は完成したレポートを10月に協議会ウェブサイトに掲載した。

氏名	タイトル
三上真理子	シリーズ:各国メセナ活動推進団体の「今」 Vol. 1 フランス ADMICAL

- 引き続き、三上氏と協働で国際調査を含めた研究を進める。

### 1-3. 認定・顕彰事業

#### 「This is MECENAT」

##### ■活動の再開により認定件数が増加、新規・継続ともに登録が定着し、TIM認知度が向上

- コロナが第5類に移行したこともあり、2023年度は通常に戻って開催する活動も増え、メセナ認定制度「This is MECENAT」(以下「TIM」)では、175件、116社・団体が認定となった(2022年度:163件、111社・団体)。継続認定が126件、89社・団体となり、会員7割、非会員の8割以上が昨年に続けて登録している。
- 協議会理事や過去の選考委員による推薦、数年アプローチし続けたことで応募につながった新たな活動もあり、TIMの認知度が着実に上がっていると同時に、年々登録が定着している。制度開始からの登録件数は延べ1,501件となった。

##### ■事業間のリソースを活用した掘り起こし、国や行政のプラットフォームを活用した地域への働きかけ

- 他事業のリソース(調査研究事業:実態調査回答企業、広報事業:クリッピング記事掲載企業、ライブラリーの過去活動企業資料など)を活用して掘り起こしを実施。全国の企業・芸術文化団体はじめ県庁、経済同友会、商工会議所に働きかけ、また経産省地域未来牽引企業や経団連SDGs特設サイトなどのプラットフォームを参考にピックアップし、地域におけるTIM認知度向上に努めた。

##### ■発信方法を工夫、協議会広報ツールの連動と認定企業との連携による広報力を強化

- 募集チラシでは、活動事例を通してコロナを乗り越え、全国各地で広がる企業メセナの多様性を紹介するとともに、認定企業の声として、TIM認定を受けたことによる効果やマークの使用媒体を掲載。また、チラシ送付先(2,993件)全てにメセナ実施企業・団体の推薦状を同封したところ、2件の推薦があり、新規登録につながった。

- 募集開始のプレスリリースは、外部配信サイト(PR TIMES)に 18 件掲載された。認定発表のプレスリリースは、PR TIMES のほか地方紙向けに 25 種作成し、個別に FAX 配信したところ、96 件記事が掲載された(2022 年:58 件)。また、新規認定企業からも独自にプレスリリースを作成・配信いただいたことで、より波及効果が高まった。
- 認定企業・団体には、協議会サイト「アート&カルチャー」の利用手順について丁寧に案内し、広報発信のサポートに努め、また協議会メルマガ・公式 SNS と連動させることで広報力を強化した。結果、2023 年度は 211 件の掲載につながった(2022:173 件)。認定を受けた担当者からは、活動チラシやウェブサイトのほか、自社のサステナビリティレポートなどでも発信している声を受けている。今後も TIM 認定のメリットを理解してもらえよう、より積極的に働きかけていく。

## 「メセナアワード」

### ■「メセナアワード 2023」を選考、ダンス文化の発展と改革に挑戦する取り組みなど、全ての活動が初受賞

- 「メセナアワード 2023」は、「This is MECENAT 2022」で認定された活動 163 件を対象としており、5 月末の締切りまでに 36 件の応募があった。また、認定・顕彰部会での検討会により推薦された活動を含め、最終的に全 53 件を選考委員に提案した。また、事前に選考委員からの推薦が 3 件挙がった。
- 対象案件については 9 月に選考会を実施し、活動地域・ジャンル・規模をはじめ、芸術的な観点や企業リソースの活用、社会・地域への貢献や活動の継続性・発展性・独創性など幅広い視点で検討いただき、時代を捉え、独自の手法で人と社会をつなぐ先進的な企業メセナとして大賞 1 件、優秀賞 5 件を選出した。
- アーティストに作品創作の場をつくり実験的なプログラムを企画し、多様な人々の交流を通してダンス文化の発展と改革に挑戦する取り組み、最先端技術の学習機会と体験の場を提供する活動、アートを通じて若手アーティストと高齢者をつなぐ活動や、地域の伝統技術の保存・普及と後継者育成への取り組み、行政や大学と連携して社会課題に対応し地域の魅力を発信するプロジェクト、“復興と未来”をテーマに 2045 年に向けた願いを描いたウォールアートプロジェクトが評価された。2023 年度は全ての企業・団体が初めての受賞となった。

### ■贈呈式開催、担当者による活動紹介・受賞スピーチのほか、3 年ぶりにレセプションを実施

- 贈呈式を 11 月 28 日にスパイラルホールにて開催。当日は関係者のみを招待し、出席者は一般 70 名(受賞各社・団体、選考委員、協議会役員など)、プレス 21 名だった。当日は受賞活動の報告、受賞企業担当者による活動紹介や、選考評、トロフィー紹介などが行われた。また、ホワイエでは活動資料・ポスターなどの展示スペースを設置し、式典後は 3 年ぶりにレセプションを開催した。
- 大賞のセガサミー文化芸術財団からは、「コロナ禍で行動が制限される中、ダンス作品を世に届けていく活動の一つひとつ行ってきた。『感動体験を創造し続ける～社会をもっと元気に、カラフルに。～』というミッション/パーパスのもと、文化芸術活動もカラフルに、今後も取り組んでいく」と喜びのスピーチをいただいた。
- 出席者からは「受賞各社の発表内容にも刺激を受けつつ、皆様との交流も大変有意義な時間を過ごすことが出来た。今後も当社らしい視野を広く持ったメセナ活動を継続していきたい」「生活者と企業がつながっていく活動の核に、メセナ活動が位置づけられてきている。企業が新たな価値を発見し成長するとともに文化も成長していくことが、これからの幸せの一つのヒントではないか」などの声が

あった。

■プレスリリース、パンフレット制作、YouTube 配信など、受賞活動の広報発信

- 10月26日、11月9日にプレスリリースを配信(10月26日は文化庁同時配信)し、主要メディアをはじめ業界紙、専門誌など9社の記者取材があった。受賞活動発表から贈呈式まで含めメセナアワード関連記事数は113件(2024年1/15現在)となり、朝日新聞をはじめ、地方紙では北國新聞、富山新聞や中国新聞、そのほか建設・住宅業界やアミューズメント業界、美術雑誌などにも掲載された。
- 贈呈式開催にあわせて制作したパンフレットでは、受賞活動の紹介、大賞受賞のトップインタビュー、選考評、来年度のアワード対象となる「This is MECENAT 2023」認定活動などを掲載した。当日出席者へ配布したほか、協議会関係者約1,559社・団体へ郵送した。ウェブサイトでは、式典での受賞各社のスピーチや選考評などを開催レポートとして発信したほか、アーカイブ動画も掲載した。
- 贈呈式の様子はYouTubeでライブ配信し、首都圏をはじめ地方企業や文化関係者などに幅広く贈呈式を知ってもらえる機会となった。ライブ配信の最大時同時接続者数は35人、視聴回数は256回(2023年12/31現在)だった。



「メセナアワード 2023」贈呈式



担当者による受賞活動紹介

【「メセナアワード 2023」受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞		一般財団法人セガサミー文化芸術財団 Dance Base Yokohama
優秀賞	ここから才能が育つで賞	清水建設株式会社 シミズ・オープン・アカデミー
	アートがチャームをつなぐで賞	株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 若手アーティストと高齢者をつなぐ、チャーム・ケアコーポレーションの文化支援活動「アートギャラリーホーム」
	伝統と革新の技で賞	日機装株式会社 公益財団法人 宗桂会の創立、活動支援
	明日香に明日が香るで賞	株式会社長谷工コーポレーション 奈良県明日香村における歴史・景観保全活動及び地域活性化への取り組み
	「願い」をアートで描くで賞	株式会社広島マツダ WALL ART PROJECT " 2045 NINE HOPES "



【This is MECENAT 2023／メセナアワード 2023 審査委員】

萩原なつ子	(独立行政法人国立女性教育会館理事長／(認特)日本 NPO センター代表理事) ※委員長
新井鷗子	(横浜みなとみらいホール館長／東京藝術大学客員教授)
佐倉 統	(東京大学大学院情報学環教授／理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー)
中島信也	(CM 演出家・クリエイティブディレクター／武蔵野美術大学客員教授)
仲町啓子	(実践女子大学名誉教授／秋田県立近代美術館特任館長)
山口 周	(独立研究者、作家、パブリックスピーカー)
夏坂真澄	(企業メセナ協議会理事長)

\* 以上五十音順、敬称略

1-4. 情報発信・提供

■ 広報活動

(1) プレスリリース

各事業の年間計画に基づき、配信サービスを利用し、各事業と連携をしながら配信先の絞り込みをするなど丁寧な配信に注力した。

【プレスリリースによる情報発信:10 件】

No.	配信日	リリースタイトル
1	2/8	「SDGs とメセナ」vol.8 国際セミナー「北欧に学ぶウェルビーイングとアート」
2	3/1	3/13 より募集スタート「This is MECENAT 2023」企業メセナ協議会が全国のメセナ活動を認定—地域活性や社会課題に向けて、企業が取り組む芸術文化を通じた社会創造活動を認定・発信—
3	3/28	アフターコロナを見据え、メセナ活動の実施件数が増加 社会の変化を反映した多様な活動を展開～2022 年度 メセナ活動実態調査 結果～
4	5/30	「SDGs とメセナ」 vol.9「2022 年度 メセナ活動実態調査」報告会 ～多様化するメセナ活動 の“今 ”と“これから”～
5	7/4	メセナ活動認定制度《This is MECENAT 2023》 企業による芸術文化支援活動 175 件を認定
6	9/5	訃報 福原義春名誉会長逝去のお知らせ
7	10/23	地域が誇る、唯一の指揮なし室内オーケストラによる、音楽プログラム 「The Okura Tokyo Cultural Fund」第 6 回助成活動決定
8	10/26	「メセナアワード 2023」受賞 6 活動決定 メセナ大賞はセガサミー文化芸術財団の「Dance Base Yokohama」
9	11/9	「メセナアワード 2023」贈呈式開催 時代を捉え、人と社会をつなぐ 6 社・団体を表彰
10	11/14	「SDGs とメセナ」vol.10 国際セミナー開催「これからの企業メセナを考える」

## 【事業関連記事のメディア掲出数】

年	協議会全体	メセナアワード	TIM	調査研究	助成	国際	その他
2019	4	126	47	5	1	0	23
2020	30	100	74	61	70	0	7
2021	2	132	68	58	0	0	6
2022	25	102	84	40	11	24	0
2023	2	113	119	54	0	28	343

(紙面、ウェブ掲載含む)

※2020年「協議会全体」30件のうち28件が「ネットTAM芸術文化応援プロジェクト」

※2020年「助成」はGBFundでコロナを災害認定、助成の実施によりプレスリリース配信したため

※2022年「協議会全体」は24件が30周年記念出版書籍に関する記事

※2022年 国際セミナーのプレスリリース配信を始めた

※2023年「その他」の342件は福原名誉会長ご逝去関連

## 【主な掲出記事】

掲載日	媒体	内容	関連事業
7/5 10/31	北國新聞	メセナ活動2件認定 富山、石川で 加賀象嵌の普及に尽力 日機装 メセナアワード受賞	TIM アワード
7/7	日刊食品通信	ニッポン、「ルナ・フローラ」2年連続認定	TIM
7/19	鉄鋼新聞	淀川製鋼所 ヨドコウ迎賓館の保存・活用 「メセナ活動」に 認定	TIM
8/9	新潟日報	ブルボン吉田記念財団 文化振興でメセナ認定 キーン・セ ンター運営 評価 東京の協議会	TIM
8/15 12/1	新美術新聞	「This is MECENAT 2023」企業のメセナ活動 175件認定 「メセナアワード 2023」大賞にセガサミー文化芸術財団	アワード
11/15	娯楽産業	セガサミー文化芸術財団 「メセナアワード 2023」メセナ大賞 を受賞	アワード
11/26	朝日新聞	メセナ大賞にセガサミー財団	アワード
11/30	日刊建設工業新聞	清水建設、長谷工コーポが優秀賞受賞 メセナアワード2023 都内で授賞式	アワード
12/13	日刊自動車新聞	メセナアワード 2023 優秀賞を受賞 広島マツダ	アワード

## (2)ウェブサイト運営

会員企業のメセナ活動および This is MECENAT 当年度認定活動を掲載するイベントカレンダーである「アート&カルチャー」は、昨年に引き続き掲載依頼を積極的に行った。特に TIM 認定活動のリサーチに注力し、あわせて担当者へのメルマガ配信も行った。その結果、掲載数は前年比約 4 割増加、ページビューも前年比で 2 倍となり、継続した取り組みの効果が順調に表れている。



【ホームページへの年間アクセス数】

年	ページビュー (閲覧数)	セッション数 (訪問回数)	ユーザー数 (訪問者数)	アート&カルチャー ページビュー
2021	105,220	41,667	31,874	19,432
2022	97,524	40,290	29,927	25,484
2023	109,775	42,759	30,309	49,215

※外部サイトの「TIM」と「かるふあん」を除く

※SNS フォロワー数： Facebook 2,239、Twitter 1,919、Instagram 431

【アート&カルチャー掲載数】

年	記事数		団体数	
	全体	TIM 認定活動	会員	非会員
2021	125	81	26	2
2022	267	170	36	8
2023	395	276	69	23

(3) メールマガジン

協議会のイベントやニュースの紹介および「アート&カルチャー」掲載の会員活動を中心に、月 1 回(月初)に定期配信を行った。そのほか会員からの掲載依頼の対応、事業と連携した主催イベントや募集の周知など、適宜個別の不定期配信も行った。メルマガ配信数は会員、一般(協議会関係者・利用者)合わせて約 3,000 件。2023 年は This is MECENAT 担当者および名刺交換した方々へはご挨拶としての配信を欠かさず行い、例年 20 人前後増加のところ登録者数が約 200 以上増加した。

(4) メセナライター制度

4 月～翌年 3 月の年度で実施しているため、年度替わりに空白ができてしまうのが課題であったが、前年委嘱した中から 2 名を継続して委嘱したことで、年度始めから秋口にかけての取材・記事公開をすることができた。2022 年に見直した運営方法を継続・改善をし、メセナライターに主体的に取材をしていただきながら、それぞれの個性によって魅力的な記事を公開することができた。

第 8 期(2022 年 4 月～2023 年 3 月) 委嘱 4 名(継続 4 名)※継続のみはコロナ禍の影響により

第 9 期(2023 年 4 月～2024 年 3 月) 委嘱 5 名(新規 3 名、継続 2 名)

【企業メセナ訪問記:4 件】

公開	タイトル	ライター
2/28	油機エンジニアリング株式会社 メセナアワード受賞から広がる「メセナ活動」その先へ	美里茉奈
7/31	株式会社長谷工コーポレーション “集まって暮らす”楽しさを伝え、次世代を育む学びの拠点に 集合住宅のすべてがここにある！「長谷工マンションミュージアム」	前田真美

8/21	清水建設株式会社 木を通じて人が出会い、育まれる「木育活動」	寺田 凜
12/14	TOA 株式会社 創作人形劇で伝える、「音」と生きる力	瀬戸義章

【その他レポート掲出数:3件】

公開	タイトル	ライター
5/16	「SDGsとメセナ」vol.8 国際セミナー「北欧に学ぶウェルビーイングとアート」 [開催報告レポート]	前田真美
9/28	「2022年度メセナ活動実態調査」報告会[開催報告レポート]	寺田 凜
10/3	第9回会員ネットワーク勉強会 トークシリーズ「芸術支援にいま、必要なこと」 ～Vol.2 ブリティッシュ・カウンシルの最新事例と英国の文化政策から学ぶ～ [開催報告レポート]	平木理平

■出版、ライブラリー

メセナ情報の提供とライブラリー運営、協議会出版物の電子データ化

- 既刊発行物の販売を実施
  - ・『メセナセミナーシリーズNo.10 企業へのアプローチガイド』(2007年3月発行): 4冊
  - ・『企業メセナへのアプローチガイド』(2020年4月発行): 16冊
  - ・『サステナブル経営と企業メセナの役割』(2021年12月発行): 18冊
- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ、社会貢献、CSR活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。2023年度の利用件数は3件だったが、海外の研究者の来局もあった。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:00(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和書・報告書: 1,627冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧)</li> <li>・洋書: 563冊(14カ国の文化政策、アートマネジメント関連)</li> <li>・企業・企業財団の資料: 約960企業・団体分</li> <li>・新聞・雑誌掲載記事(1989年12月～2022年12月)</li> <li>・定期刊行物: 行政、芸術団体、研究機関、NPO、他</li> </ul>
閉架資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像・音声資料: 265点(主催セミナー: 1998-2001年)</li> <li>・メセナアワード贈呈式: 1991年～2011年</li> </ul>
年間利用者数	3名(一般: 3名)

## 1-5. 普及促進

### セミナー・フィールド視察

■持続可能な社会に向けて、人間の豊かさに寄与する芸術文化の役割、企業メセナの可能性やアートと企業の関係性について考える国際セミナーを開催。

- 会員企業との共催で、各分野の専門家や大学教授、ジャーナリスト、各企業のメセナ担当者などをゲストに、芸術文化の視点からウェルビーイングを捉える国際セミナーや、持続可能な社会に向けてこれからの企業メセナを考える国際セミナーを企画・実施した。また、調査事業と連携してメセナ活動実態調査の報告と先進的な事例を紹介し、知見を深める内容を開催した。当日は全てオンラインでライブ配信を実施し、一定期間アーカイブとして公開したほか、後日協議会サイト上に開催レポートとして報告・発信した。
- 上記セミナーは会員企業の担当者をはじめ、芸術文化団体、文化施設、教育機関や NPO 法人など様々な芸術文化関係者が参加し、アンケートでは 95%から「大変満足／満足」の好評を得た。

### 「SDGs とメセナ」vol.8 国際セミナー「北欧に学ぶウェルビーイングとアート」

SDGs とともに注目を集める「ウェルビーイング」をテーマとした国際セミナーを開催。フィンランドセンター所長のアンナ＝マリア・ウィルヤネン氏からは、北欧の生活に根づく考え方や、自然とアート・デザインなどの芸術表現とのつながり、幸福度の高さについてお話しいただいた。また、国立西洋美術館長・田中正之氏には美術館の新たな役割や諸外国の取り組み事例について紹介いただき、大日本印刷の石橋響子氏には同社がアートをテーマに長年取り組んできたメセナ活動について紹介いただいた。後半は、文化プロデューサーの迫村裕子氏にも登壇いただき、ウェルビーイングとアートの関係、人々のこれからの社会における芸術文化のあり方についてディスカッションの場を設けた。

※共催：大日本印刷株式会社／後援：フィンランド大使館／協力：フィンランドセンター、S2 株式会社

※文化庁委託事業 令和4年度「次世代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

- 日 時：2023年3月10日(金)14:00～16:00
- 会 場：大手町フィナンシャルシティ カンファレンスセンター ホール
- 登壇者：アンナ＝マリア・ウィルヤネン(フィンランドセンター 所長)  
田中正之(国立西洋美術館長)  
石橋響子(大日本印刷株式会社 ICC 本部 企画開発室 企画開発グループ)  
迫村裕子(S2 株式会社 代表)
- 参加者：会場 25 名／オンライン(視聴者数)78 名



## 「SDGs とメセナ」vol.10 国際セミナー「これからの企業メセナを考える」

2024年2月開催のフィールド視察の事前セミナーとして、持続可能な社会に向けて芸術文化の役割や企業メセナの可能性について改めて考える機会とした。基調講演では、ベネッセホールディングスの塩田基氏より「ベネッセアートサイト直島」に始まり、「瀬戸内国際芸術祭」へと発展し世界的な評価を得ている同社と瀬戸内海の島々の取り組みから、企業とアートの関係性について講演いただいた。ゲストトークでは、宇沢国際学館代表取締役・占部まり氏より、父である宇沢弘文氏が提唱したSDGsにも共通する社会的共通資本の考え方について、またジャーナリストであるスベンドリニ・カクチ氏からは国際的な視点として海外でのアートと文化の支援事例を紹介いただいた。後半のクロストークでは、瀬戸内での取り組みから、芸術文化の意義やこれからの可能性について、改めて話し合われた。

※共催：株式会社ベネッセホールディングス

※助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（次代の文化を創造する新進芸術家育成事業））、独立行政法人日本芸術文化振興会

- ・ 日 時：2023年12月21日(木)14:00～16:00
- ・ 会 場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター ホール【EAST】
- ・ 登壇者：塩田 基(株式会社ベネッセホールディングス 本社・直島統轄部 渉外課 担当課長)  
占部まり(内科医/宇沢国際学館代表取締役/日本メント・モリ協会代表理事)  
スベンドリニ・カクチ(Tokyo Correspondent, University World News, UK)  
澤田澄子(企業メセナ協議会 常務理事兼事務局長)
- ・ 参加者：会場13名/オンライン(視聴者数)93名(2024/1/31時点まで)



## 会員ネットワーキング

■新入会員同士の交流の場をはじめ、企業・団体・アーティストなど幅広い参加者との交流機会をつくり、芸術文化支援のあり方を考えるイベントを実施。

### 【新入会員ファーストミーティング】

・会員ネットワーキンググループ幹事の主催で「新入会員ファーストミーティング」を開催し、2023年は3社の新会員が参加した。当日はオンライン開催とし、各社で取り組むメセナ活動のプレゼンテーションや協議会の活動概要等を説明し、会員ネットワーキンググループのメンバーと事務局スタッフも含め、相互に交流を深めた。

## 新入会員ファーストミーティング

- 日 時 : 2023年8月3日(木) 15:30~17:00
- 会 場 : オンライン・協議会事務所
- 参加会員: 10名 (うち新入会員以下3社)  
川上かをり、中島 優(インターネットイニシアティブ)  
阿部芳久、高橋弘愛(大分県信用組合)  
羽根響子、田島佑美(久原本家グループ本社)



## 【会員ネットワーキング勉強会】

- 第9回勉強会では、芸術支援のいまと今後について学び、考えるトークシリーズを開催。英国の公的な国際文化交流機関である「ブリティッシュ・カウンシル」のアーツ部長・須藤千佳氏をゲストに招き、これまで取り組んできた日英の文化芸術団体や行政、企業などとの連携プログラムや、現在の英国の文化政策、文化セクターの動向などについて話をうかがった。企業のメセナ担当者をはじめ、アールカウンシル担当者、個人でアート支援を行う活動者、支援を受ける側のアーティストや演出家など、さまざまな芸術文化関係者が参加し、日本の芸術支援のあり方について再考する機会を得た。
- 開催後はメセナライターの記事レポートを作成し、協議会サイトで発信した。



第9回 会員ネットワーキング勉強会 トークシリーズ「芸術支援にいま、必要なこと」  
～Vol.2 ブリティッシュ・カウンシルの最新事例と英国の文化政策から学ぶ～

- 日時：2023年8月29日(火)16:00～17:30
- 会場：ブリティッシュ・カウンシル
- スピーカー：須藤千佳(ブリティッシュ・カウンシル アーツ部長)
- 参加者：23名(会員15名、一般8名)



## ■ 国際交流

協議会の英語版ウェブサイトにも、例年掲載している調査報告書発行のプレスリリースに加えて、日本企業のメセナ活動を世界へ発信すべく、以下のメセナアソシエイトの事例研究5本と、メセナライターのリポート1本を掲載した。

- Social Inclusion Activities through Art and Corporate Mécénat
- Mécénat Activities Needed in Japan Today
- Ongoing Corporate Sponsorship\_Concerning Traditional Okinawan Arts
- Japanese Corporate Sponsorship Activities regarding Contemporary Dance
- The Role of a Corporation Engaged in Mecenat for the Promotion of Post-War Japanese Photography in France
- Yuki Engineering Co., Ltd.: “Mécénat Activities”: Going beyond receiving the Mécénat Award

## ■ 地域メセナ交流・推進

各地域の文化振興に寄与

- 全国メセナネットワーク(会員数:13 団体)の幹事として会の活性化を図るために、本年度も引き続き、7月5日にオンラインも併用して総会を開催した。厳しい社会環境の中で各団体の芸術文化振興に取り組む現状を共有し、活性化に向けた意見交換を行った。来年度も引き続き総会にて情報交換を行い、メセナ活動の活性化に向けた議論を継続することとなった。

## 1-6. コーディネート、協力

### ■芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協議会に蓄積された情報や知見を活かし、公益芸術団体など芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担った。
- 出張講座  
大学などの教育機関や文化関連団体・組織などの招聘に応じ、企業メセナに関する講座を実施。

#### 出張講座(教育・普及活動)「企業メセナの歴史と最新動向」講義

- 5月24日 桜美林大学 芸術文化学群「社会文化・メセナ論」約180名
- 6月15日 横浜市立大学 国際教養学部「文化政策論」約70名
- 6月29日 昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科「アート・マネジメントⅠ」約30名



### • ネット TAM(トヨタ・アートマネジメント)

トヨタ自動車と協議会が協働して運営するアートマネジメントに関する総合サイト「ネット TAM」については、本年度も継続して事務局を担い、サイトの運営をしている。

コンテンツの定期更新として、毎月初に更新している「リレーコラム」では2017年に改正された「文化芸術基本法」において、文化芸術振興が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの関連分野にひろがったこと。そして多種多様な文化プログラムが実施されたオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されたことを踏まえ、文化芸術振興とそれにもなうアートマネジメントのこれからについて考えるうえで、ヒントとなるテーマを展開した。あわせてコロナ禍をきっかけにスタートしたアートにかかわる方々の「声」を集約していく「Voices～みんなの声座」も定期的に更新した。「TAM ブログ」においては、協議会の情報発信事業の一環で実施しているメセナライター制度による「企業メセナ訪問記」で制作した記事を「アートと企業」のテーマで展開し、企業メセナの現場をご紹介する取り組みを開始した。また、2022年に実施したリアルとオンライン開催をかけたあわせた通年プログラム「TAM スタジオ」を2023年も実施。「TAM スタジオ 2023 連続ゼミナール～ここからはじめるアートマネジメント」と称してアートマネジメントに興味関心をもつ大学生・大学院生を対象に参加者を募集し、2024年3月まで実施を予定している。

トヨタ自動車	アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」の運営
<p>主な業務内容:アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(<a href="http://www.nettam.jp">www.nettam.jp</a>)事務局としてサイトの管理・運営、コンテンツの企画・制作、運営事務局の定例会開催、メルマガ配信(定期配信月 1 回ほか適宜)、SNS 管理・運営。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TAM スタジオ 2022「次代のアートマネジメントのつながり方」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーター:田村かのこ氏(アートトランスレーター)</li> <li>・2022年7月11日～2月17日 オンラインミーティング 2回実施(全5回)</li> <li>・トークセッション(第2回)1月28日開催/場所:門天ホール</li> <li>・トークセッション開催レポート(メセナライター取材執筆)および参加メンバーレポートとしてコンテンツ制作・公開</li> </ul> </li> <li>• TAM スタジオ 2023 連続ゼミナール「ここからはじめるアートマネジメント」 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファシリテーター:野田智子氏(アートマネージャー/Twelve Inc.取締役)</li> <li>・期間:2023年8月1日～2024年3月(実施中) オンラインミーティング 4回実施のほかトークセッション(第1回)9月7日開催 /場所:トヨタ自動車株式会社 東京本社</li> <li>・ゲスト:戸舘正史さん[文化政策、アートマネジメント] 第2回は2024年2月22日開催予定</li> <li>・参加費:4,000円</li> <li>・対象:アートマネジメントに興味のある専門学校生、大学生、大学院生 ※専攻問わず</li> <li>・参加者数:20名</li> <li>・トークセッションの開催レポート(メセナライター取材執筆)および開催後に参加者レポートを「参加メンバーの声」として記事制作・公開</li> </ul> </li> <li>• アクセス数(年間) <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問数:約100万、ユーザー数:約46.3万 ページビュー:約343万</li> </ul> </li> <li>• 主な更新内容: コンテンツ連載(月1～3件更新) <ul style="list-style-type: none"> <li>【Voices～みんなの声座】・・・さまざまな分野や立場で芸術と向き合う人の声を集める投稿形式のミニコラム</li> <li>【リレーコラム】・・・アートマネジメントの現場で活躍中の方々が1つのテーマに沿ってリレー形式でつなぐエッセイ <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アート×福祉～ひろがるアート」6回/全9回(2022年10月～2023年6月)</li> <li>・「アート×まちづくり～ひろがるアート」全6回(2023年7月～2023年12月)</li> </ul> </li> <li>【社会におけるアートの可能性】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・(一財)たんぼぼの家、(福)わたぼうしの会理事長 播磨靖夫氏×トヨタ自動車(株)社会貢献推進部 部長 トヨタ博物館 館長 布垣直昭氏対談</li> </ul> </li> <li>【ネット TAM ブログ】・・・災害、社会に向き合うアート活動の現場レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートマネジメントのインターン現場レポート 世田谷パブリックシアター 2023」世田谷パブリックシアターの協力のもと、インターン生のレポートを紹介。全4回</li> <li>・「アートと企業」アートの現場レポート! 企業編 清水建設(株)の木育活動・東京木工場</li> </ul> </li> <li>【TAM スクール】・・・リアルに共有し、ともに考える場。2021年に開催したイベント関連のコラム等掲載招聘したゲスト、清宮陵一氏による、講義で紹介した活動の論考をご紹介。</li> <li>【英語版サイト】・・・Pick up column これまで公開した寄稿コラムを英訳し英語版サイトで紹介 5本のコラムを英訳・公開</li> </ul> </li> </ul>	



【その他協力依頼対応】

■委員・役員

依頼元	内容(期間・開催日)
文化庁	国民文化祭実行委員会委員 (2023年4月1日～2024年3月31日)
静岡県	「静岡県文化政策審議会」委員 (2021年8月16日～2023年8月15日)
横浜市	令和5年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2023年7月1日～2024年6月30日) 令和4年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2022年7月1日～2023年6月30日)
船橋市	「船橋市文化振興推進協議会」委員 (2023年4月1日～2025年3月31日) 「船橋市文化振興推進協議会」委員 (2021年4月1日～2023年3月31日)
特定非営利活動法人 日本NPOセンター	評議員(2023年7月1日～2025年6月30日) 評議員(2021年7月1日～2023年6月30日)
認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク	第8期評価委員会委員(2023年～2025年)
東京芸術祭実行委員会	東京芸術祭実行委員(2023年4月1日～2025年3月31日)
独立行政法人 日本芸術文化振興会	「芸術文化振興基金運営委員会団体専門委員会」専門委員 (2023年11月20日～2024年9月30日)

■後援 ラベル提供

依頼元	内容(期間・開催日)
特定非営利法人 世界劇場会議名古屋	世界劇場会議国際フォーラム Final in 可児 (2023年1月26～27日)
認定特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会	FRJ2023(2023年2月18日・19日)
象の鼻テラス (運営者: 榊ワコールアートセンター)	参加型音楽プロジェクト Earth∞Pieces

■その他

内容	依頼元
相談対応	日本生命、助成財団センター、東京芸術劇場など

## 公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

### 2-1. 2023 年活動状況

#### ■助成事業の体系整備

より多くの多様な支援が行えるよう、活動者にわかりやすく利用しやすい制度とするため、制度運用について再検討を行い、体系の整理を実施した。助成認定制度は、その意義をより明確にするため、対象とする活動の規模を事業費総額 3000 万円以下から、事業費総額 1000 万円以下に改定することとし、2024 年第一回活動募集から施行するため、関係団体に説明を実施した。また、昨今の様々なコスト高に対応し、助成事業の継続を図るため、社会創造アーツファンドの手数料の一部改定をすることとし、2024 年第一回活動募集から施行するため、関係団体へ説明を実施した。

#### ■助成認定制度の利用促進

毎月の助成相談日や日々の問い合わせ対応などを通して、助成認定制度の普及を推進した。2023 年は、助成認定制度で新規団体による活動申請が 19 件、そのうち 18 件が認定となった。2022 年の助成認定では、新規団体による活動申請が 19 件、そのうち 12 件が認定であったので、活動申請は横ばいであるものの認定件数は増加した。また、社会創造アーツファンドについても、2023 年は新規団体による申請が 17 件あり、そのうち 16 件が採択された。

#### ■助成事業 Web システム「かるふあん！」のシステム改良

10 月より施行されたインボイス制度施行後も、かるふあん！で全て対応できるように、活動者の利便性を保つための改良を実施した。

### 2-2. 2023 年 助成事業の利用状況

#### 2-2-1. 社会創造アーツファンド[ArtsFund]

##### 1. 【申請・採択状況】

##### (1) 芸術・文化団体による活動の利用状況

##### ・2023 年度各回利用実績

実施回	選考日	申請数	採択数
第 1 回	2023 年 3 月 15 日	11 件	10 件
第 2 回	2023 年 6 月 7 日	13 件	13 件
第 3 回	2023 年 9 月 22 日	9 件	7 件
第 4 回	2023 年 12 月 13 日	6 件	6 件
合計		39 件	36 件

・年度別利用状況の推移

実施年度	申請数	採択数
2016年度	20件	16件
2017年度	27件	22件
2018年度	23件	19件
2019年度	23件	20件
2020年度	18件	16件
2021年度	29件	22件
2022年度	29件	20件
2023年度	39件	36件

(2)目的別ファンドの継続運用と寄付者の要望に沿った寄付コーディネートを実施。

●The Okura Tokyo Cultural Fund (2017年3月設立・2019年10月名称変更)

実施回	選考日	助成総額	採択数
第1回	2017年3月16日	2,774,000円	3件
第2回	2018年3月6日	1,000,000円	2件
第3回	2018年12月17日	900,000円	2件
第4回	2020年3月19日	1,000,000円	2件
第5回	2022年9月15日	500,000円	1件
第6回	2023年9月22日	500,000円	1件

2.【寄付・助成状況】 SOMPO アート・ファンド、The Okura Tokyo Cultural Fundを含む

年度	寄付総額	助成総額
2016年度	377,876,359円	312,131,769円
2017年度	256,823,600円	191,149,911円
2018年度	332,193,261円	300,837,133円
2019年度	326,212,289円	324,521,423円
2020年度	174,023,742円	168,341,792円
2021年度	206,420,000円	195,271,600円
2022年度	224,176,523円	213,429,638円
2023年度	240,024,465円	227,128,050円

## 2-2-2. 「芸術・文化による災害復興支援ファンド」(GBFund)

### 1. 【申請・採択状況】2017年1月名称変更より

実施回	選考日	申請数	採択数
第1回	2017年7月14日	54件	11件
第2回	2018年7月13日	46件	13件
2019年	2019年2月27日	10件	10件
2020年	2020年10月8日	74件	16件
2022年	2022年3月2日	1件	1件
2023年	2023年7月10日	1件	1件

※申請数、採択数には、追加支援を含む。(2021年は、寄付金減少などにより、採択未実施。)

### 2. 【寄付・助成状況】※2011年3月設立「東日本大震災による復興支援ファンド」を含む

年度	寄付金総額	寄付金累計額	助成金総額	助成金累計額
2017年度	4,367,060円	159,085,370円	4,897,390円	145,430,577円
2018年度	1,445,824円	160,531,194円	3,080,000円	148,510,577円
2019年度	1,532,627円	162,063,821円	1,303,127円	149,813,704円
2020年度	3,587,455円	165,651,276円	3,444,376円	153,258,080円
2021年度	302,345円	165,953,621円	0円	153,258,080円
2022年度	1,207,958円	167,161,579円	1,070,000円	154,328,080円
2023年度	26,228円	167,187,807円	397,216円	154,725,296円

## 2-2-3. 助成認定制度

### 1. 【申請・認定状況】

実施回	審査日	申請件数	認定件数
第1回	2023年3月15日	18件	17件
第2回	2023年6月7日	23件	21件
第3回	2023年9月22日	17件	16件
第4回	2023年12月13日	13件	11件
合計		71件	65件

2. 【年度別利用状況の推移】

実施年度	申請数	認定数
2016年度	102件	81件
2017年度	72件	65件
2018年度	88件	72件
2019年度	86件	70件
2020年度	66件	52件
2021年度	49件	43件
2022年度	64件	58件
2023年度	71件	65件

3. 【助成認定制度を通じた寄付件数と寄付金額】

年 度	寄付件数	寄付総額	助成総額
2016年度	337件	62,765,639円	67,485,639円
2017年度	412件	76,613,798円	77,024,613円
2018年度	471件	74,981,467円	75,820,652円
2019年度	499件	75,797,558円	73,572,558円
2020年度	289件	65,311,020円	60,146,020円
2021年度	277件	53,942,000円	57,577,000円
2022年度	310件	63,381,970円	63,946,970円
2023年度	370件	65,756,611円	66,896,611円